



第 1 号
平成14年 8 月 発行
発行責任者
平 澤 憲

△云報発行に行にあたって

△云 長 平 澤 憲

暑さ厳しき折、皆様方には益々お元氣にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

母校同窓会並びに菅浦春高会に対し格別なお力添えをたまわり有難うございます。

お陰さまで菅浦春高会も発足六年目を迎えささやかながら着実な歩みが続けております。

その間、平成十一年には春高百

「△云報」で更なる発展を

春高同窓会△云事務局長

中 村 行 生

菅浦春高会が誕生して六年目になる今年、更なる発展を期して「会報」を創刊されるとのこと、心からお喜び申し上げます。

平澤 憲会長を中心に少人数ながら固く結束して春高会を運営、発展させてこられたことに、衷心より敬意を表するものでございま

年祭も盛大に行われ伝統の重みと同窓会の力強さを痛感致しました。

本会の事業としては、今のところ年一回の役員会及び総会、懇親会が主ですが毎年母校同窓会事務局長の中村 行生先生をお迎えし情報交換などを通してなごやかな一時を過ごしております。

現在、卒業生名簿に基づいて百六名の方々にご案内を差し上げて

す。

ところで、春高同窓会には二十ほどの支部・春高会がありますが、現在会報を発行している支部・春高会は、宮代春高会だけでございます。今回貴会が会報を発行されるという事は、更なる会の発展と会員相互の親睦を図ろうという

おりますが、住所の変更があり、菅浦在住の方は約半数ぐらいかと思えます。多くの方々は全国各地で活躍されています。

遠方にある方々も故郷菅浦の会員として積極的なご協力を頂き通信費も多少のゆとりが出来ましたので事業の一環として、また会員皆様方へ情報提供し更なるご理解を頂きたく会報第一号を発行致しました。

次号より内容も更に充実してまいりますので、皆様方からの情報等をお寄せください。

尚、本年度の総会、懇親会を九月八日(日)に開催致しますので振るってご出席ください。

皆様方のご健勝と益々のご活躍ご発展をお祈り致します。

強い意気込みをお持ちだからと思えます。この会報が、その趣旨通りに、会員お互いの親善と連帯に貢献されますようお祈りいたしております。

さて、同窓会本部では、今年から四十歳以上の皆様に賛助金のお願いをいたしておりますが、お陰様で、七月末日現在五百六十万円を越すご浄財をお送りいただいております。

当然のことではございますが、この貴重な資金を節約しながら同窓会活動の本来の目的のために有効に使わせていただくつもりでございます。ここに中間報告をさせていただきます。

菅浦春高会の更なるご発展をお祈りいたします。

春高同時代の

田心い 山

古同二二二回卒

中山 及豆三司用力

私は、昭和四三年四月に春日部高校に入学し、昭和四六年三月に卒業しました。入学してすぐに剣道部に入部し、三年間続けました。毎日きびしい練習に明け暮れ、二年生の時には主将となり、県大会でもかなり上位までいったこともありました。私の春高時代の思い出でというとはほとんど剣道部のつらい練習と、試合で負けたくないという気持ちを持っていただけです。今考えると、それはそれでかけがえのない青春の思い出ですが、一方でもうすこし楽しい高校生活を送れなかったものなのかとか、学問のおもしろさに気づいてもっともっと勉強すればよかったという思いもあります。(笑)(笑)

しかし、誰しも100%満足できる
高校生活の思い出ばかりを持って
いる訳ではありません。むしろ高
校時代を思い出すが、その後
の私の人生の中で何らかの形で、

その原動力になっていいる事も事実
であり、結局やはり貴重な体験を
した三年間であったというのが実
感であります。

「五王福の時」——五十からの手習

岡 安 正 一 (第十八回卒)

頭を空白にしてプールの中へ
喜びがじわっと体全体へ広がっ
てゆく

健康っていいなあと思ひながら
水の中へ……

体と心がこんなに活き活き躍動
するのが不思議なくらい心地良い
ひととき。

今日も楽しみながら全身を生き
返らせる事に専念する。

生きている素晴らしさ、喜びを
全身で味わう。

葛蒲春高会も早六六年目を経過、
母校は百周年を祝いました。今年

も九月八日(日)葛蒲春高会総会、
懇親会が開かれます。一人でも多
く是非ご出席頂き、親しく、楽し
く、相互触発し、一時を満喫しよ
うではありませんか。楽しみにし
ております。

春高同△△の思ふたす役割

平 沢 卓

葛蒲春高会が同校卒業生及び在
校生の固有の親睦及び母校との情
報連絡組織として設立されて六年
目、この会はその役目を良く果た
して来て居ります。今この事実が
在るのは、当葛蒲春高会を立ち上
げるに当り多大なお骨折りをなさ
れた私達の先輩同窓生で、この会
の現会長、平澤 憲様、現町長中

山様、その他役員の方々及び多く
の卒業生、在校生の皆様のご熱意と
御協力が実った結果だと私はその
様に思っています。私は、今を
去る五十年前の昭和二十七年春高
へ入学しました。当時春日部の地
には何の縁もなくたまたま地名を聞
いた程度でしたが、県内でも有数
の伝統校と云う噂は、私に単純な

憧の思いを抱かせました。

在学中、学科に依っては話しに
もならない苦汁を味わう事に成る
のですが、在学中も卒業後も不思
議と母校には厭な思いを持った覚

△△△にぜひ出席ください

小 山 典 宏 (百一十八回卒)

昨年開通した春日部葛蒲線のバ
イパスを内牧から直進すると、母
校近くの八幡神社の脇を通過し、
野田線の踏切をこえ駅西口方面の
市役所通りに至ります。

私は、この道路開通で二つの恩恵
を受けております。一つは、通勤
する行政書士事務所が市役所通り
に面しているので、通勤時間が短
縮できたことです。もう一つは、
神社近くを通ることです。

がありません。楽に卒業と云う訳
にはいかなかった様です。今后こ
の春高会の果たす役割の重要性が
増々鮮明に会員の皆様にご認識され
るものと思われれます。

春高会の会員であれば八幡様の
思い出は誰の胸にも一つや二つお
ありでしょう。通勤当初はわくわ
くして通過したものです。

また、春日部で仕事をしよう
になつて、春高OBであることが
信用につながり、大きな恩恵も享
受しております。

こんな春高OBの共通の話題で、
盛り上がる唯一の機会が総会です。
多数の参加をお待ちしております。

熱き日々々の思い出

第二十一回卒業生 平 沢 栄 蔵

青春。学び舎。文武両道。質実
剛健。春高時代を思い起こすとき、
こんな言葉が浮かんでくる。暑い
運動場でのしごき、寒い講道館で
の柔道、プレハブの建物での授業、
同窓会で校歌を歌うときこんな思
い出が彷彿として現れる。
下足のまま教室に入れるという、

三十五年前としては画期的な高校
だった。その春高が百周年を迎え
新しい校舎に生まれ変わった。し
かし、同窓会で先輩、後輩にお会
いするときは春高健児は変わって
いないと感じる。

「首目蒲春吉向△云」に寄せて

第二一十八回 昭和五一年卒

文蔚 藤 武 雄

私は、現在、葛蒲町役場企画財務課に勤務しております。職場が地元であるということもあって、「首目蒲春高会」が発足以来、役員として参加させていただいております。

さて、高校生活を振り返りますと、県下でも唯一の土足での学校というところで、独特の埃っぽい？空気が漂っていました。当時名を馳せた応援部の独特の指導による朝礼での校歌斉唱や冬期でも短パンという体育時の身にしてみる寒さなどが記憶に残っています。

また、男子校ということで、女

萩 野 勝

(古向校杖笈第二一回卒)

我が母校野球部は、この夏の甲子園予選も残念ながら一回戦で敗退してしまいました。

「ほそき流れをあつめて〜」この名曲が、甲子園で流れる日を心待ちにしている身としては、悔しい限りです。私が高校に入学する年の春、春高は選抜補欠校となり甲子園にもっとも近いところだったのでした。以来、歴史と伝統の

子校との交換会なども楽しい思い出のひとつとして懐かしく思い起こされます。

現在においては、創立百周年を迎え、校舎も新しく生まれ変わりましたが、長い年月に培われた伝統と気風は時代を越えていつまでも受け継がれていくと思います。

最後に、青春時代を同じ高校に学んだ地元同窓生と世代を越えた交流の機会が得られるこの会は素晴らしい組織であると思います。「首目蒲春高会」がますます発展されることを祈念申し上げます。

ある春高にとつて、甲子園は遠いものとなっております。ところで、私は中学校教師をしています。

(今年の四月より、さいたま市教育委員会の所属となり、現場を離れております。)

今年度も担任したクラスから二人の生徒が春高に入学しました。二人とも野球部です。卒業時、彼

らには、「ぜひ母校を甲子園に出場させてくれ！」と激励の言葉を贈りました。彼らが活躍するであろう、来夏、再来年の夏が楽しみです。

そして、さらに言えば現在、中学一年生になる私の長男も、野球少年です。我が息子が、母校に入学し、野球部員として、甲子園に出場！そうなら、素晴らしいなあ・・・と自分勝手な夢を膨らませていきます。

野球の話に終始しましたが、実は私は在学中バドミントン部。当時我が部は関東大会、インターハイ出場をねらう、県内では屈指の実力校でした。我が世代のときに、関東大会十九回目の出場を果たした後、ずっと県予選を勝ち抜くことができずにいるようです。

こちらもはやく二十回の記念出場を迎え、晴れて「成人の日」を迎えてほしいと切に願っているのですが。

さてさて、甲子園とバドミントン部の関東大会出場二十回目、どちらの夢が先に実現するのでしょうか。

母校への熱い思いを今年もまた、多くの同窓の方々と語り合えることを楽しみにしております。

春吉向の△王国制覇

野 本 順 一

(古向二二七回卒)

春日部高校が「文武両道」を校風としているように、様々な運動部の活動がさかんである。昨年までもバスケット等が県大会を制覇し、インターハイへ連続出場を進めてきた。過去にもバレーボールや多くのクラブが活躍を重ねてきた。しかし、全国制覇ともなると数はぐっと絞られる。

私が所属した陸上部は、個人種目での全国制覇十一種目を数える歴史あるクラブだ。しかし、一九六三年インターハイで後藤秀夫先輩(高十七回)が優勝して以来、三位以内は多くあっても十数年間優勝者は輩出されなかった。後藤先輩は東京五輪の聖火ランナーまで勤めた偉人であったがそれも私らが生まれる前の話である。しかし二十年後の高三七回の私達に、久々のチャンスが巡ってきた。同期の中で、才能にひと際輝きを放った選手・瀬上裕司が入学してきたのである。彼のお父さんも高十三回で円盤投げ全国二位の大先輩だ。瀬上は、二年の名古屋インターハイから優勝争いに加わり、翌一九八四年の秋田大会へ舞台を移

しさらに優勝に燃えていた。私は幸い恩師・小原監督（高十回）に大きな大会の場に全て引率させて頂いてきたので、友人・瀬上の優勝への想いはとても強い。相手は昨年の覇者である奈良県の選手で、瀬上よりかなり大きな身体をしている。いよいよ本番。その炎天下での砲丸投げ、円盤投げの死闘の結果、瀬上は二種目準優勝を飾った。総合でも春高は、インターハイ総合五位、フィールド競技部門三位。副主将である私は、表彰式に参列しながらなぜか複雑な心境だった。優勝だけを狙って血の滲む努力をしてきた友人が二種目全国一位で喜ぶべきか？同期の仲間

☆ 車事故口同だより

☆ 平成十四年度役員（案）

顧問	中山 登司男
会長	平澤 憲
副会長	平澤 卓
副会長	岡安 正一
監事	小山 典宏
監事	平澤 栄蔵
幹事	荻野 勝
幹事	野本 順一
幹事	黒川 哲也
事務局	斎藤 武雄
事務局	蓮見 秀夫

は、今シーズンにケガ続出で力を発揮できなかった総合五位。順当に全員が戦っていたら全国総合優勝も狙えた・・・と思うと期待して育てて頂いた恩師に、申し訳ない気持ちでいっぱいであった。インターハイからの暑い帰り道、悶々とした気持ちの高三の夏だった。しかしこの話には、まだ続きがある。秋の国体で、その寂然としない気持ちは晴れた。奈良県というまさに敵地のど真ん中で、その年の国体は開催された。その不利な条件下で春高の瀬上は、堂々と高校円盤投げに優勝を飾ったのである。春高において高校日本一は、この後まだ誕生していないと思う。

☆ 状況

総会出席 十二〜十四名
 会費納入 二十五〜三十名
 返信届け 三十五〜四十名
 このような状況ですが、現在まで約百名の方会員に、御案内を差し上げております。したがって、会費の大半を通信費として支出しています。
 五年を経過し、長期分の会費納入や芳志等により多少の余裕も出てきましたので、会報をお届けすることになりました。

役員一同更なる充実をめざし努力して参りますので、ご協力よろしくお願い致します。

松嶋△云、 狼忠朝祝△云

のし安未内

来たる九月八日（日）には、ご案内の通り恒例により、総会に引き続き楽しい懇親会を開催致します。懇親会では、母校の思い出話や、卒業後の様子などが紹介され、有意義な楽しい一時を過ごすことができます。

また、それぞれ持ち前の歌声を披露するカラオケや、応援団出身者による指揮によつての校歌の合唱など、学年を超えた楽しい会に参加しませんか？
 お待ちしています。

☆ 平成十四年度

定期総会・懇親会

九月八日（日）

午後五時半より
 割烹 大浜店

☆ 名簿の作成上、ご連絡頂いた方については、確認、訂正してありますが、その後変更等がありましたらご記入ください。

ひとこと

蓮見 秀夫

（高校二三回卒）

社会の最前線で活躍の諸先輩のお話に感銘し、自分よりずっと後輩達から、元気をもらおう。年に一度の総会ですが、出席できることは有り難いことと思う。生まれも就職も町内ということ、この会の発足当初から皆さんにお世話になっている。
 今年は、どんなお話が聞けるのか、今から楽しみです。

垣 佳木 俊 後 記

葛蒲春高会の会員の皆様方に、情報を提供し、更なるご理解を頂きたく、会報を発行することになりました。

第一号ということで、中村先生をはじめ、役員の方々に無理を承知で原稿をお願いいたしました。特別、テーマを決めずにご利用したのでありますが、一人一人、春高男児の熱き想いが、伝わってくると思います。

忌憚のないご意見、ご要望等、なんでも結構ですので、事務局までお寄せ下さい。
 （蓮見）